

Laughter is the best medicine

～笑いは最善の薬～

2/6に在宅医療ワークショップを小田南生涯学習プラザにて行いました。以下は生徒の感想です。

今日の活動を通してまた改めて人生の最期についてたくさん学ぶことができました。今までは友達としか、もしばなゲームをしたことがありませんでしたが、今日は保護者の方と一緒に連れてほんとうに楽しかったです。進行も上手く進めることができ安心しました。やはり、同じゲームでも人によって考え方が違うことがよくわかりました。保護者の方の意見に圧倒されたり、いや自分は違うと思ったり。自分がどのように思うのかを家族や信頼できる人と共有していくことが大切です。

劇では失敗してしまったところもありましたが、保護者の方から「素晴らしかった」、「よかったよ」と言ってもらえて裏方でしたが、とても嬉しかったです。たくさんの人にアドバンスケアプランニングについて知ってもらえてよかったです。

在宅療養ワークショップでは、パソコンの用意の手違いがあり順番の入れ替えがありましたが、臨機応変に対応でき成功できました。もしばなゲームが先に来ることでその後のパワーポイントや劇の内容も考えながらできたのではないかと考えています。もしばなゲームでは、一年生二人と友人の家族の方と4人で行いました。家族の方は機器には絶対繋がれたくない、これが一番優先したいことだと仰っていました。このことを遺言として残したいと何度も言われていたので、もしばなゲームが伝えるきっかけになれば嬉しいと思いました。また、2回目のもしばなゲームでは、年齢設定を変えて行い、皆選ぶカードが1回目と

● 違っていました。私たち高校生の立場と大人の立場では考えが違うことが改めてわかりました。
● 劇では、1月23日より練習する日が圧倒的に少なく不安が多かったです。3日間の昼休みの練習だけで本番に挑めると判断したリーダーの思い切りは、私には絶対できないので凄いなと思いました。しかし、一度もまともに通しをしなかったのは反省するべき点であると思いました。看取り班としての最後の行事が終わり、やっと肩の荷がおりた気がします。色々な事がありましたが楽しかったし、沢山成長できました。看取り班の仲間感謝でいっぱいです。

● 今回の在宅療養ワークショップは、初めてもしばなゲームを使って地域の方々と交流できたことが1番印象的でした。自分にとって必要な3枚のカードを選んで、意見交換をした時、私たち高校生よりも地域の大人の方が、選んだ理由をはっきりと明確に示していました。
● 私は死が迫っている時にどう過ごしたいのかがまだ曖昧だったので、今回の交流を機に家族と最期の過ごし方について話し合ってみようと思いました。看取りの劇では、少し悔いが残りました。前回の探究報告会では、つまらずにはっきりと全てのセリフを言えたのですが、油断してセリフが飛んでしまうことが怖くて、若干速くなり、1回つまってしまいました。緊張と不安で起きた失敗なので、これからはどんな状況でも緊張しないように努力しようと思いました。

在宅療養ワークショップを行いました。今回は二回目の劇とパワーポイントの発表ともしばなゲームをしました。私は、パワーポイントの発表はやらなかったのですが、劇ともしばなゲームをしました。最初に、もしばなゲームから始まりました。私は、進行係を担当しました。私は自分で進めたり説明をすることが苦手です。上手くできるか不安でした。しかし、一緒に進めてくれている友達と協力し合いながら、スムーズにすることができました。一回目は、初めてもしばなゲームをするので相手の人が分からなかったり難しそうにしていたら、自分が分かりやすくもう一回説明をして、理解した上でゲームをすることができました。終わったあとには、「難しかったけど、楽しかった」という意見が聞けてとても安心しました。二回目は、一回目の人と違う人とゲームをしました。二回目はゲームのやり方が分かっていたので、ゲーム中には積極的に話しかけてくれる人がいました。そのおかげもあって楽しく進めることができました。一回目も二回目も死についての価値観が全然違いました。年齢によって「清潔さが大事」、「家族と一緒にいい」、「役に立ちたい」など死についての向き合い方を意見として聞くことができると良かったです。劇は、二回目の発表でした。一回目に比べて、全員が自分の役に責任を持って演じきり、背景のスライドの再作成によって上手く仕上がったと思いました。在宅療養ワークショップを行い、自分と違う意見を聞いて、自分では思っても見ようとしなかった考え方を知ることができましたし、地域の人と関わり、会話することで初めて今までやってきた活動が自分の力となっていると実感しました。

私は今回の劇は少し練習不足だったと思います。探究報告会の時はほぼ毎日放課後に残って練習をしました。しかし、今回は1度も残らずまた、練習も月曜日、水曜日、金曜日の昼休

-
-
- みだけでした。だから2回の劇を比較するとお
- そらく、探究報告会の劇の方が良いものだと
- 思います。しかし、探究報告会で出てきた私
- 自身の改善点は改善することができたので良
- かったと思います。
- パワーポイントの発表は緊張し、何度か嘔ん
- でしまい、聞き取りづらかったと思います。
- しかし、人前でパワーポイントの発表という
- 経験はそう何度も行えることではないと思う
- ので、いい経験になりました。「多職種連携」
- という言葉は少し言いづらかったです。
- もしばなゲームでは、私は痛みがない、呼吸
- が苦しくないなど、自分がしんどくないよう
- に選びました。しかし、一緒にゲームを行っ
- た方は、最期を1人で過ごさない、家族と最期
- を過ごすなど1人で最期を迎えないということ
- を重要視していました。自分はあまり重要で
- はないと考えたことでも他の人からしたら大
- 切だったり、自分とは違う理由で重要だと感
- じていたり、人それぞれ思うこと、考える
- ことは違うのだということに改めて理解しま
- した。
-
- 私は今回初めて在宅療養ワークショップ参加
- しました。ここでは、もしばなゲームや今ま
- で受けてきた講義の内容の説明、劇をしまし
- た。私はもしばなゲームと講義の内容を発表
- しました。もしばなゲームではそれぞれが最
- 期の迎え方で大切にしているものが全然違っ
- いてとても面白かったです。今までの経験か
- らお話を下さった方や仕事をしている中で
- 最期の迎え方に変化があったりなど様々な話
- が聞いて良かったと思います。私の班には3年
- 生の先輩も参加していました。歳が近いから
- 似たような考え方もあったり、逆に全然違う
- 考え方もあったので本当に一人ひとり考え
- 方が違うということに改めて知ることができ
- ました。講義内容の発表ではとても緊張しまし
- た。本番では何度か嘔んでしまいましたが、
- 終わってから「良かったよ」「よく勉強してるね」

など言ってもらえたのでとても誇らしく思いました。今まで色々な講義を受けてよかったと思えました。今回の在宅療養ワークショップでは司会もしました。言い間違えないように進行させるのはとても緊張したし、時間変更などもあって大変でした。しかし、とても良い体験ができたと思います。この在宅療養ワークショップでは短時間で色々な方と語ることができ、新しい経験もできたので参加してよかったと思えました。

今回在宅療養ワークショップのお手伝いをして自分の最期について考えることの大切さが分かりました。高校生の私も不慮の事故で突然余命を告げられることがあることも教えてもらい、私も今から自分事として考えることが出来ました。以前までは看取りについて興味を持ちながらも、自分の最期について考えるなんて縁起でもないと思っている所がありました。しかし、そうではなくて自分の最期について考え今をどう過ごすことが大切なのだ気づくことが出来ました。また、もしばなゲームでは60代くらいの方とお話をしました。私は初めて、もしばなゲームをしましたが、考え方の違いに気づいたり、自分はこういうことを大切にしているのだと自分の思いにも気づいたりすることが出来ました。2年生の方々はコロナ禍で例年と変わったことが多かったと思うのに、沢山の講義を受けられていて自分の思ったことを持っていてかっこいいと感じました。また、もしばなのゲームの際に年上の方にどのようにコミュニケーションをとれば良いのか分からず困りましたが、2年生の方が沢山話しているのを見て、こういう風にすれば良いんだと学ばせてもらうこともありました。学ぶことがとても多く、参加して良かったと思えました。私はこども班ですが、このようなイベントに参加し在宅療養のことにも関わっていけたら良いなと思えました。

在宅ワークショップに参加して色々な事を学びました。
まず、先輩方のパワーポイントでの発表や劇を見て来年に活かすべきところやしっかりと事前学習などをして自分たちの力で作っていることに感動しました。
私は看取りに興味があって患者さんやそのご家族の意思や価値観などを何度も話し合っ決めていくことなど課題が沢山あることを知ることが出来ました。私たち頑張ろうと思います。

今回、在宅医療ワークショップに参加して、多くの地域の人と交流ができたと思います。もしばなゲームの時に高校生同士ではなく地域の方と一緒にいったからです。初めはとても緊張しましたが、普段の学校生活などの話を交えながら会話をすることで打ち解けることができました。今後もこのように地域の方と関わるイベントを続けていきたいです。

今回、在宅医療ワークショップを行って、地域の方々に私たちが学んできたことを発表することができて良かったです。また、もしばなゲームでは地域の方と、コミュニケーションをとりながら楽しく行うことができました。これらの学びを今後も発表する機会を作っていきたいです。